

半導体サプライチェーンの一翼を担う四国地域

10月号	第1回	東北編
11月号	第2回	北海道編
12月号	第3回	九州編
1月号	第4回	中部編
2月号	第5回	中国編



矢野照久

Yano Teruhisa

経済産業省四国経済産業局

地域経済部 製造産業・情報政策課長

(略歴)

1996年 四国経済産業局 入局

2022年 総務企画部参事官（カーボンニュートラル担当）

2024年 地域経済部 製造産業・情報政策課長、参事官（次世代産業・連携支援担当）

1. 四国地域の製造業の特徴

四国地域の経済は、人口、域内総生産、製造品出荷額等などの全国の比率が約3%を占めることから、よく「3%経済」といわれている。各産業の全国に占める割合をみると、第1次産業が第2次産業や第3次産業と比べて高い。全国に先行して人口減少や高齢化が進む中で、地域経済の維持と発展といった課題がある一方、高い技術力を有するニッチトップ企業が多数存在し、豊かな自然やこれを活かした食や観光資源に恵まれているなどの強みもある。

四国地域の製造業は、製造品出荷額等の全国シェアでは3.1%（2022年）を占める。産業分類別の構成割合をみると、全国に比べ、非鉄金属、化学、紙・パルプといった基礎素材型産業のウエイトが6割と高く、はん用機械、電子部品・デバイスといった加工組立型産業が低いのが特徴である。

四国地域の半導体関連産業について、産業分類の「電子部品・デバイス・電子回路製造業」及び「生産用機械器具製造業」のうち「半導体製造装置製造業」を整理したものが表「四国地域における半導体関連産業の現況」である。

それぞれの四国の製造品出荷額等の全国に占める

割合をみると、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」は3.0%、「半導体製造装置製造業」は1.5%、合計では2.6%となっている。四国は3%経済といわれる中で、製造品出荷額等においては全国と比較してやや低い割合となっている。

2. 四国地域の半導体関連産業の現状と課題

四国地域における半導体産業は、九州や東北地域のような半導体製造の大型工場や関連企業の大規模な集積がないのが現状である。しかしながら、材料供給、製造装置、検査装置などで独自の技術を有する企業が存在しており、半導体製造に必要な周辺産業を支える役割を果たし、半導体サプライチェーンの一翼を担っている。以下に一例を紹介する。

(1) 半導体関連企業の状況

① 材料分野

日亜化学工業(株)(徳島県阿南市)は、発光ダイオード(LED)や半導体レーザーダイオード(LD)といった光半導体材料で世界トップクラスのシェアを誇る。半導体の応用分野で重要な役割を果たしている。

四国化成工業(株)(香川県丸亀市)は、半導体製造工程で使用する有機材料や特殊化学品を供給。高純度化技術に強みを持ち、製造プロセスの効率化と精密化に寄与している。

② 製造装置

住友重機械イオンテクノロジー(株)(愛媛県西条市)は、半導体製造装置の中でも重要なイオン注入装置を製造。様々な電気製品に搭載されている半導体デバイスの製造に不可欠な装置を供給している。2022年には愛媛県内に新工場を稼働させ、生産能力を強化している。